農学知的支援ネットワーク形成による国際教育協力強化・推進のためのモデル構築

名古屋大学農学国際教育協力研究センター
浅沼修一

1．目的

途上国に焦点を当てた国際教育/研究協力の効果的推進のためには、大学等が有する知的資源を組織的、継続的に活用し、途上国のニーズに的確に応える必要がある。そのためには、大学を中心とした我が国の専門組織が幅広い知的支援ネットワークを形成・活性化し、個々の機関/個人が有する知見の範囲に限定されることなく、多機関の有する専門的、網羅的かつ高質な「知と経験」の十全な提供を可能とするシステムの構築が喫緊の課題となっている。そこで、農林畜水産分野の大学/研究機関等からなる知的支援ネットワークを構築し、農学国際教育協力研究センターはその拠点（事務局）機能を果たし、ネットワークを活用したリソースとニーズの把握やプロジェクトの形成・事業予算獲得・効果的な事業実施などをリードしていく体制を確立する。これによって、我が国の農学分野の国際協力を質量ともに向上させ、また、他教育分野へのモデルとして提供する。

2．活動

国内の農林畜水産分野の大学また国際農業研究機関や国際協力機関に呼びかけ、事業体としての知的支援ネットワークの制度設計、事務局運用経費の獲得手段、共同提案プロジェクトの構想等を議論するオープンフォーラムを 10 月に名古屋大学で開催した。その結果を踏まえ、具体的な組織・制度設計やプロジェクトの形成等の活動を開始する予定である。平成 21 年 2 月現在、19 機関から参加の意志表明があり、本年 10 月予定の農学知的支援ネットワークの正式発足に向けて、その組織体制、運営方法や活動内容などを事前検討するための運営委員会準備委員を組織しているところである。また、本ネットワークの事務局機能の強化のための体制整備も併せて行っているところである。

また、国内のより広範な援助リソースの調査と海外のニーズ調査を、筑波大学が開発したインタラクティブ Web システムの活用および海外調査によって行い、データベースの作成とリソースとニーズのマッチングを行って、プロジェクト形成に役立てる。これに先立ち、昨年度設立した農学各専門分野の専門家からなるキーワード選定委員会を今年度も招集し、国内リソースと海外ニーズ調査に共通して用いる観点から専門分野別キーワードの見直しを図る。さらに、海外ニーズ把握のための現地調査は、インドネシアを重点国とし、アジアでは、中国、ベトナム、タイ、マレイシア、カンボジア、ラオスおよびミャンマーを、また、アフリカではウガンダ、ケニア、タンザニアおよびガーナを対象国として実施する。

3．成果

（1） 期待する成果

・農学知的支援ネットワークの構築とそれを通じた国際協力に向けた大学・研究機関間の連携の促進

・国際教育/研究協力プロジェクトの形成促進及び JICA/政府機関等への専門的サポートの推進

（2） 成果物

・ネットワーク参加大学のリスト
・農学知的支援ネットワークの事務局準備室
・農学知的支援ネットワークの制度設計および活動内容に関する報告書
・ネットワーク活用によるプロジェクト形成方針および留意点に関する報告書
・国内外の知的援助リソースおよび支援ニーズに関する報告書（冊子および DVD）

農学知的支援ネットワーク形成による国際教育協力強化・推進のためのモデル構築

名古屋大学農学国際教育協力研究センター

背景

途上国における農業・農村問題の解決と
人材育成に対するニーズ

↓

国策への対応 - 科学技術外交の推進 -

↓

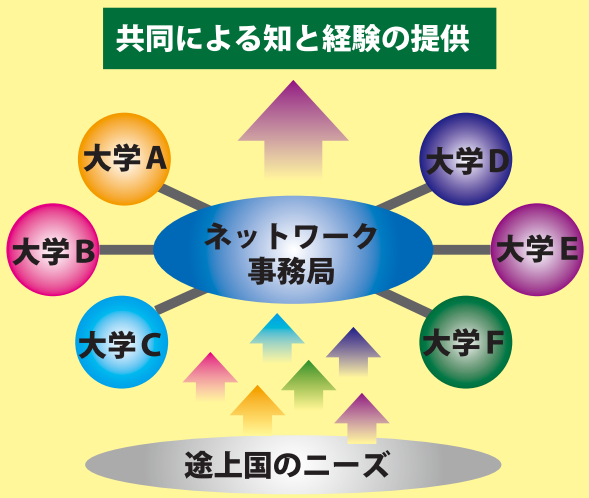
大学間の組織的・継続的な
国際協力強化・推進が必要

（これまでは個々の機関 / 個人による単発的対応が多かった）

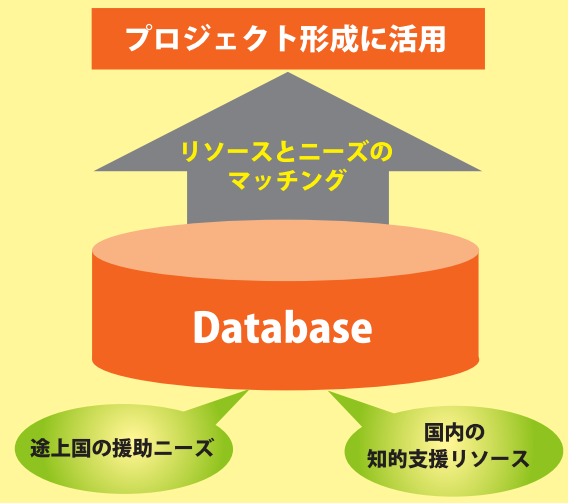
活動内容

目的： 大学や研究機関の有する専門的、網羅的かつ高質な「知と経験」の十全な提供を可能とするシステムの構築

農林畜水産分野の大学 / 研究機関等からなる知的支援ネットワークの構築



国内知的援助リソースと途上国援助ニーズのデータベース作成・管理



期待される成果

- 国際教育 / 研究協力プロジェクトの形成
- 大学・研究機関間連携の促進
- JICA/ 政府機関等への専門的サポート

展望： 我が国の大学・研究機関等が持つ知的リソースを動員して国際協力に一層有効に活用するためのモデルとして推進・普及

平成20年度「国際協力イニシアティブ」国内報告会(09.02.26)

農学知的支援ネットワーク形成による国際教育協力強化・推進のためのモデル構築

内容
1. 事業目的・概要
2. 農学知的支援ネットワーク
3. 国内援助リソースと海外援助ニーズ調査
4. 成果物作成に向けた進捗状況

浅沼　修一
名古屋大学農学国際教育協力研究センター

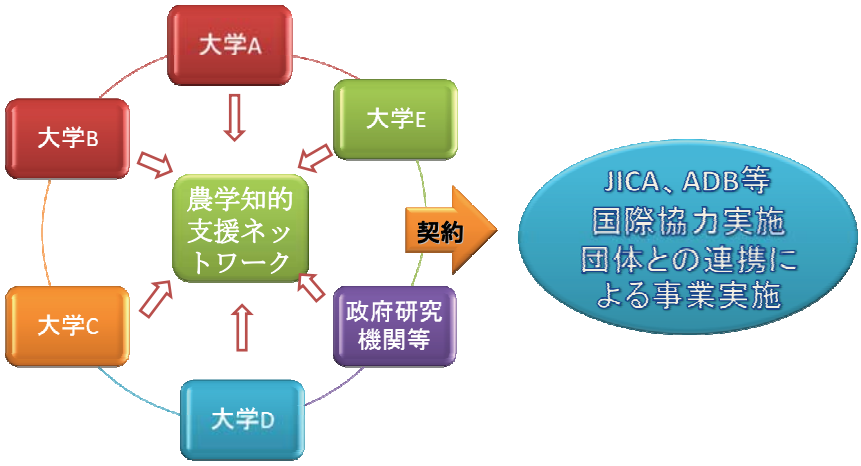
事業目的・概要

1. 農学知的支援ネットワークの形成
2. 国内の知的援助リソースと海外の援助ニーズの調査

・国際協力（科学技術ODA)に向けた大学・研究機関間の連携の促進
・国際教育/研究協力プロジェクト等の形成促進
・JICA/政府機関等への専門的サポート
・他教育分野に対するネットワーク形成モデル

名古屋大学農学国際教育協力研究センター
International Cooperation Center for Agricultural Education
Nagoya University

ネットワークの基本イメージ



ネットワーク形成の背景

1. **我が国の科学技術外交、特にODA への大学参画システム構築の必要性**
   - ・総合科学技術会議(2007.4):途上国に対するODAを活用した科学技術協力の強化
   - ・文科省:知的ネットワーク構想
     「国際協力イニシアティブ」教育協力拠点形成事業　2007-
   - ・2007:国内リソースの調査を実施、海外ニーズとのマッチングが必要
   - ・2008-:科学技術振興機構(JST)→(科学技術ODA)地球的規模課題対応国際科学技術協力事業、科学技術研究者派遣支援システム

2. **大学等の国際協力活動のあり方→知的国際貢献における大学の役割/責務**
   - ・個人の努力と情熱による点の協力から組織的な包括的協力体制への転換の必要性
   - ・大学等の知的リソースを包括的・組織的・継続的かつ効果的・効率的に活用する体制強化(基盤またはシステムの整備)の必要性の高まり

3. **援助人材の質と量の不足→育成と確保こそ教育・研究機関としての大学の責務**
4. **国際援助機関等とのイコールパートナーとしての大学の地位の確立の必要性**
5. **具体的な事業の企画・実施のためにリーダーシップを発揮できる事業主体の不在**

名古屋大学農学国際教育協力研究センター
International Cooperation Center for Agricultural Education
Nagoya University

農学知的支援ネットワークの計画概要（案）（1）

目的

大学間及び国際農業研究機関との連携のイニシエーターとして**ネットワーク体制の整備を行う**と共にそのネットワークを活用し**具体的な国際協力活動を推進**する。またネットワークが有する知識と経験を我が国のODAに戦略的に活用するために我が国ODAの実施機関である新JICAへの**情報・技術の専門サポート機能を強化**する。

ビジョン

農学領域の開発問題を実践的に解決するための「知と経験」をネットワーク化し、具体的なアクションを起こすための拠点となる。

ミッション

①ネットワークの形成をリードする （→大学・機関に対する啓蒙と参加の勧誘）
②国際協力活動を通じて開発問題の解決に貢献する
③「知と経験」の蓄積と活用のベースとする

名古屋大学農学国際教育協力研究センター
International Cooperation Center for Agricultural Education
Nagoya University

農学知的支援ネットワークの計画概要（案）（2）

ネットワークの主たる対象地域

- アフリカ
- アジア

想定される参加大学、機関

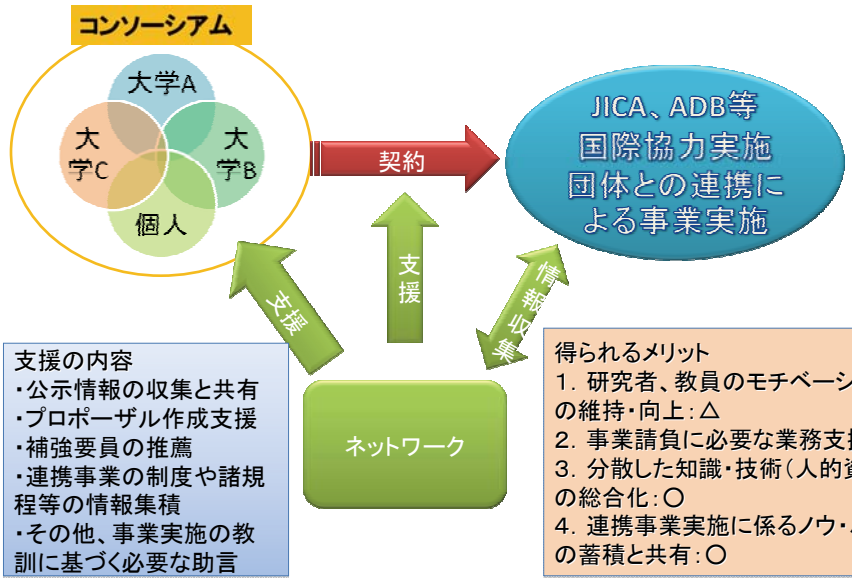
- 農学、地域開発、地域研究分野で実績があり、世界に誇れる「知と経験」を有する大学、国際農業研究機関もしくは研究者個人。

＊参考機関

HED(Higher Education for Development)：米国の大学による開発途上国に対する国際協力を推進する機関でUSAIDの全面的なサポートのもとに運営。

名古屋大学農学国際教育協力研究センター
International Cooperation Center for Agricultural Education
Nagoya University

ネットワークの業務範囲



支援の内容
・公示情報の収集と共有
・プロポーザル作成支援
・補強要員の推薦
・連携事業の制度や諸規程等の情報集積
・その他、事業実施の教訓に基づく必要な助言

得られるメリット
1. 研究者、教員のモチベーションの維持・向上：△
2. 事業請負に必要な業務支援：△
3. 分散した知識・技術（人的資源）の総合化：○
4. 連携事業実施に係るノウ・ハウの蓄積と共有：○

農学知的支援ネットワークの計画概要（案）（3）
活動計画（案）（i）

1. 効果的な支援体制の確立に向けて（大学間連携のイニシエイター）

1）大学教員インセンティブ付与のためのシステムの立案・導入、調整
2）大学間共同研究の実施、ポスドク交流等による人材の育成
3）留学生の共同受け入れ(期間、研究分担等)
4）農林水産省、文部科学省、外務省、JICAとの連携体制の整備
5）民間コンサルタントとの意見交換、情報交換会の設置
6）各種学会との有機的連携策の企画・促進

2. 具体的な支援の牽引役として（知の創造と現場への適用）
3. 情報・技術のベースとして（JICA/政府機関への専門的サポート）

農学知的支援ネットワークの計画概要（案）（4）
活動計画（案）（ii）

1. 効果的な支援体制の確立に向けて（大学間連携のイニシエイター）

2. 具体的な支援の牽引役として（知の創造と現場への適用）

7）ネットワーク構築、拡充のためのセミナーフォーラムの企画・開催
8）農業開発プロジェクト/プログラムの形成、実施（提案型、要望対応型）
9）発展途上国との共同研究プロジェクト/プログラムの形成、実施
10）包括的な農業分野長期研修の形成、実施、調整

3. 情報・技術のベースとして（JICA/政府機関への専門的サポート）

11）農学領域に関する技術・人材情報バンク（既往のデータを再活性化）
12）JICA地域部、課題部、在外事務所に対する技術支援（個別プロジェクト、プログラム、要望調査への技術コメントも含む）
13）農業技術研修改善のための技術提言
14）国際機関、他ドナーとの連携・調整への技術サポート、人材紹介

名古屋大学農学国際教育協力研究センター
International Cooperation Center for Agricultural Education
Nagoya University

農国センターと参加大学・機関との関係

●農国センターが国際協力関係予算を獲得して参加大学や研究機関に回すのではない。

●大学単独ではできないことを複数の大学等が協働して行う。
例：・JICA に対するプロジェクトや研修の提案
・JST予算(科学技術ODAなど)への応募
・政府機関予算への応募：文科省、農水省、環境省
・民間財団　など

●農国センターはそのための事務局となる。

●また、それぞれの大学が単独などで行うことをなんら阻害するものではない。

具体的な活動内容
ーネットワーク関係ー

2008年7月　文書によるネットワーク参加の呼びかけ
2008年8月　これまでの国際協力活動及びネットワークに対する意見アンケート
2008年10月　オープンフォーラム
2008年11月～　事務局立ち上げ
運営委員会準備委員の組織化および事務局体制整備

今後の予定
2009年4月　運営委員会準備委員会の設立
組織体制、運営方法、活動内容などの事前検討、案作成
2009年10月　運営委員会設立、ネットワーク設立総会
ニュースレター発行等による情報提供とメンバー大学への支援開始による活動の本格化

名古屋大学農学国際教育協力研究センター
International Cooperation Center for Agricultural Education
Nagoya University

農国センター第9回オープンフォーラム

大学等が有する知的資源の組織的活用による国際教育・研究協力の推進と強化
ー農学知的支援ネットワークの形成に向けてー

開催年月：2008年10月30、31日
場　　所：名古屋大学環境学研究科レクチャーホール
参　　加：67名（大学、文科省、農水省、JICA, JIRCAS、民間、個人など）
内　　容：基調講演
農学知的支援ネットワークの意義と役割
制度設計と活動内容
ネットワークの活用が想定される事例
農学知的支援ネットワークの戦略的活用
パネルディスカッション：農学知的支援ネットワーク推進のためのアクションプラン
ー誰が、誰のために、何をするのかー

名古屋大学農学国際教育協力研究センター
International Cooperation Center for Agricultural Education
Nagoya University

大学等が有する知的資源の組織的活用による
国際教育・研究協力の推進と強化
－農学知的支援ネットワークの形成に向けて－

名古屋大学農学国際教育協力研究センター　第9回オープンフォーラム
大学等が有する知的資源の組織的活用による
国際教育・研究協力の推進と強化
ー農学知的支援ネットワークの形成に向けてー

ネットワークの展望

1. 現在までの参加表明大学・機関
(呼びかけ:25大学(33部局)・2研究機関)

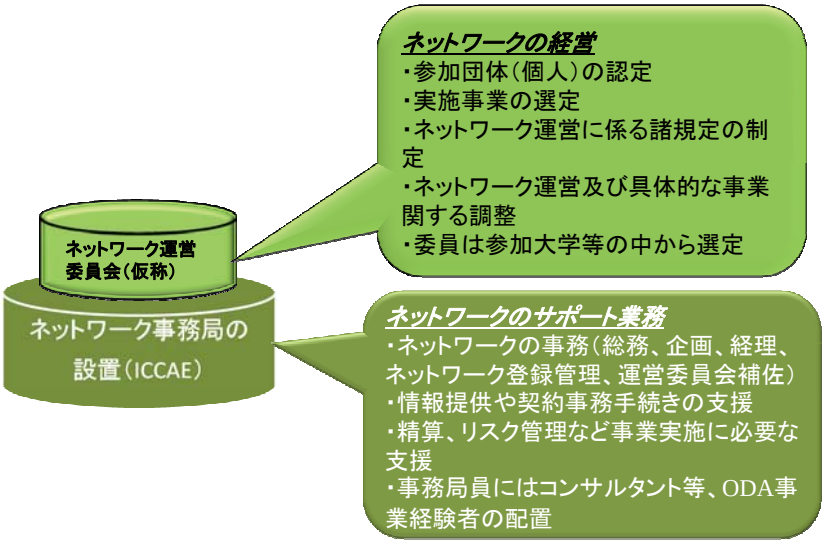
参　加:　15大学(19部局)・1研究機関(オブザーバー参加)
検討中:　6大学(8部局)・1研究機関
　　＊フォーラム終了後または活動開始後様子を見て
保　留:　1大学(1部局)
無回答:　4大学(5部局)

2. 事務局維持運営費
当面は農国センターの予算でまかなうが、プロジェクト等受託した場合は間接経費の一部を当てたい。

3. 事務局の体制整備
文科省他の支援を希望

名古屋大学農学国際教育協力研究センター
International Cooperation Center for Agricultural Education
Nagoya University

ネットワーク運営組織の構成と役割



現在、運営委員会準備委員を組織中、及び事務局機能強化のための体制整備中。

国内の知的援助リソースと海外の援助ニーズの調査

2007年

知的援助リソース調査 （九州大学との共同調査）
「国際協力イニシアティブ事業」教育協力拠点形成事業として実施

インタラクティブWebシステム（筑波大学が開発）によるアンケート
2007.7 キーワード選定委員会（農学の研究分野ごとに全国で17名）

2008年
（方法1）インタラクティブWebシステムによるアンケート
目的：国内リソースと海外ニーズのマッチング
2008.10.31 第2回キーワード選定委員会（キーワードの改訂について）

（方法2） 海外の大学・研究機関の現地調査（参加希望調査 2008年9月）
目的：①インタラクティブWebシステムによるアンケートの説明と回答依頼
②プロジェクト形成のための調査

名古屋大学農学国際教育協力研究センター
International Cooperation Center for Agricultural Education
Nagoya University

（具体的な活動内容・成果）

海外援助ニーズ調査のための出張案件：13

氏名	所属	国名（調査対象機関）	出張期間
槇原大悟	名古屋大学農学国際教育協力研究センター	ウガンダ、ガーナ	H20.11.25-12.5
浅沼修一	名古屋大学農学国際教育協力研究センター	インドネシア（RISTEK・LIPI・RCB・インドネシア大学・ボゴール農科大学	H20.11.17-23
島田清司	名古屋大学鳥類バイオサイエンス研究センター	インドネシア（RCB・インドネシア大学・ボゴール農科大学）	H20.11.17-23
大場裕一	名古屋大学生命農学研究科	インドネシア（RCB・インドネシア大学・ボゴール農科大学）	H20.11.17-23
花里信彦	名古屋大学生命農学研究科	インドネシア（RISTEK・LIPI・RCB）	H20.11.17-21
小島泰典	名古屋大学国際部	インドネシア（RISTEK・LIPI・RCB）	H20.11.17-20
位田晴久	宮崎大学農学部	インドネシア（ｼｬｸﾜﾗ大学、ﾎﾞｺﾞｰﾙ大学）	H21.1.6-11
中野秀雄	名古屋大学生命農学研究科	インドネシア（マタラン大学）	H21.1.7-13
納口るり子	筑波大学生命環境科学研究科	中国（延辺大学）	H20.11.2-6
山口良二	宮崎大学農学部	ベトナム（ハノイ農業大学）、中国（雲南農業大学）	H21.1.3-10
緒方一夫、酒井謙二	九州大学熱帯農学研究センター、農学研究院	マレイシア	H21.1.11-14
伊藤香純	名古屋大学農学国際教育協力研究センター	カンボジア、タイ、ラオス	H21.1.17-26
渡邉和男	筑波大学生命環境科学研究科	ミャンマー（農業灌漑省、農林水産学アカデミー、イェジン農業大学、パセイン大学）	H21.1.21-27

2009年2月3日現在

大学別の回答件数(リソース調査):79

大学・機関名	件数	大学・機関名	件数
筑波大学	18	中部大学	1
名古屋大学	15	石川県立大学	1
九州大学	7	岩手大学	1
日本大学	5	神戸大学	1
宮崎大学	4	京都府立大学	1
鹿児島大学	3	三重大学	1
京都大学	3	新潟大学	1
東海大学	3	酪農学園大学	1
JIRCAS	2	島根大学	1
香川大学	2	信州大学	1
岡山大学	2	東北大学	1
東京農業大学	2	東京海洋大学	1
		鳥取大学	1

(参考:平成19年度のリソース回答総数330)

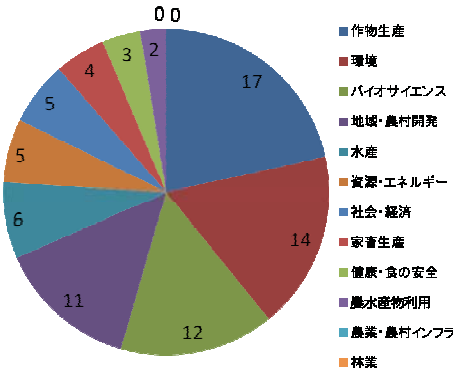
地域別の回答件数(ニーズ調査)

地域	件数
アフリカ	102
アジア	42
ヨーロッパ	1
大洋州	1

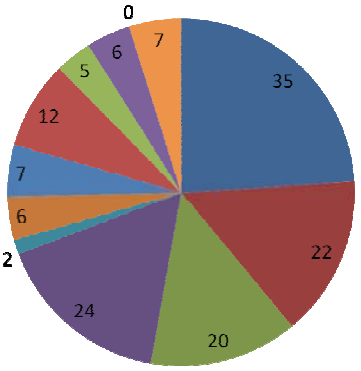
国別の回答件数(ニーズ調査):146

国	件数	国	件数
ケニア	28	インド	4
インドネシア	21	中国	3
タンザニア	21	ベナン	2
ブルキナファソ	20	フィリピン	2
ガーナ	13	アルバニア	1
ウガンダ	13	ニューカレドニア	1
バングラデシュ	11	ベトナム	1
南アフリカ	5		

知的リソースの分野(回答件数:79)



海外ニーズの分野(回答件数:146)



今後の予定・展望:

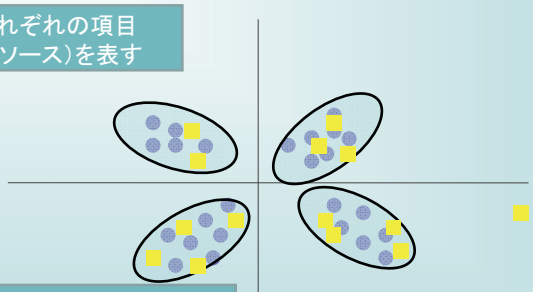
・リソースとニーズのマッチングの解析は現在進行中

・ネットワーク活動の一つとしての定期的な調査・現状分析のツール

本年度実施している分析（リソースとニーズの同時マッピング）

- リソースとニーズを同時に分析し，プロットする（数量化理論III類）

青い円はそれぞれの項目（国内知的リソース）を表す

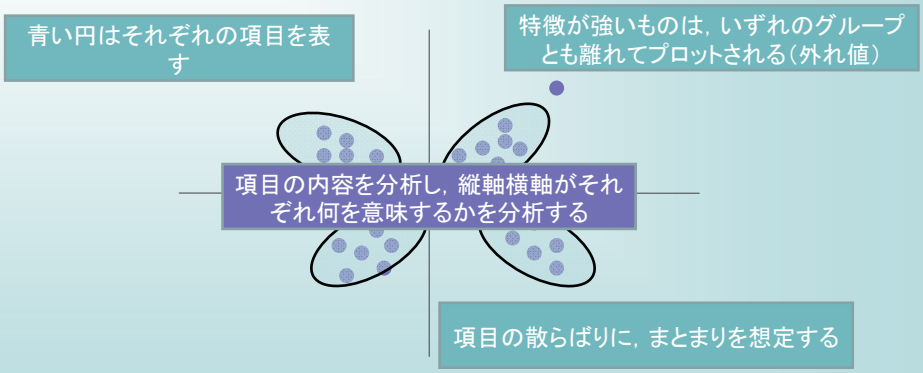


黄色い正方形は海外ニーズを表す

離れてプロットされるニーズには，その領域におけるリソースの拡張が望まれる

成果物作成に向けた進捗状況

1. ネットワーク参加大学のリスト　作成済み
2. 農学知的支援ネットワークの事務局準備室
   農国センター内に設置済み（バーチャル）
3. 農学知的支援ネットワークの制度設計および活動内容に関する報告書　作成中
4. ネットワーク活用によるプロジェクト形成方針および留意点に関する報告書　作成中
5. 国内外の知的援助リソースおよび支援ニーズに関する報告書（冊子およびDVD）　作成中

報告書で使用した分析の概要（数量化理論III類）

- 概要：類似した被選択傾向を持つ項目が集まる